音楽と紡ぎ合う児童の育成
～他者と協働する音楽学習を通して～

福島市立瀬上小学校　教諭　守谷　千晶

1　研究の趣旨

⑴　教育の今日的な課題・新学習指導要領から

子どもたちが現代社会に対応していくために、特に言語活動を通じどのような力を育み伸ばすのかを、より明確にして実践していくことが必要である。新指導要領の改善点の一つとして言語活動の充実が挙げられる。他者と協働しながら、音楽表現を生み出したり音楽を聴いてそのよさを考えたりしていく学習を大切に扱うことが重要とされている。

⑵　学校・児童の実態から

吉井田小（前任校）は、マーチングバンド部があり音楽が盛んな学校である。個人差はあるが、本学級の児童は音楽に親しんでいる児童が多い。しかし、感じたことや表現方法など問うと、答えることのできない児童がとても多い。この傾向は他教科や日常にも顕著である。

そこで、音楽との関わり合いや他者との協働を通して、児童一人一人の音楽的素地を開花させたり、知識・技能や音楽表現や学びに向かう人間性等を高めていったりしていくことを、「音楽と紡ぎ合う」として、以下に述べるような仮説を設定し、本主題に迫った。

研究仮説

音楽科の高学年の学習において、学習過程の中に音を通した他者との協働を扱う授業を行えば、音楽と紡ぎ合うことができるであろう。

2　研究の概要

⑴　目指す児童像

他者との協働を通して、音楽的な見方・考え方をしながら、進んで音楽と関わろうとする児童

⑵　手立て

①　基礎・基本を定着させながら意欲を高める指導の工夫

１常時活動の充実　ア）意図ある音楽遊び　イ）知っている曲や名曲に触れる活動

②　自らの考えを広げたり深めたりすることができる学び合いの工夫

❶問いと音楽の要素を繋げる活動　❷聴き比べ　❸音の実験　❹音の活用

3　成果と今後の課題

⑴　成果

○　常時活動を通して主体的に取り組むようになり、技術が高まったことが考えられる。また、音楽遊びを通して友達と助け合うようになり、友達が教えてくれる安心感も感じてきている。

○　音を通すことで、イメージを膨らませたり共有させたりでき、試行錯誤しながら話し合うことのできる児童が増え、音楽的要素と想像とを繋げていく児童の姿が見られるようになった。

○　音楽科だけでなく他教科でも事実を基に、想像を膨らませたり事実と事実を関連付けたりすることのできる児童が増えてきている。

⑵　課題

●　常時活動の精選や効果的な指導法、絵やイメージ図等視覚的に分かりやすい板書や掲示物の工夫の研究の必要性がある。

●　音を通した学び合いでは、技術的な未熟さがつまずきとなっている児童や、恥ずかしさで音では伝えられない児童がいた。児童理解と学級経営と絡めながら研究を進めていく必要性がある。